

エコスペース博士と こどもたち

生き物が大好き！江東区には、そんな大人やこどもたちがたくさんいる。ちっちゃな命を大切に思う気持ちが、結果として地球の環境を救うのかも…

協力：NPO法人ネイチャーリーダー江東 <http://nlc.sakura.ne.jp/index.html>

江東区の絆ものがたり
①環境編



江東区の取り組み
（給食ごみをリサイクル）〜今年度から区立の小・中学校で始まったのが、調理くずや残菜、給食の食べ残しをリサイクルし、飼料として活用するという試み。こどもたちの食育にも役立つことが期待されています。

水鳥のいるまち、江東区

まっ白なアマサギが、ダンボール箱のすき間から電車内の様子をうかがっている。男は足立区で捕獲されたアマサギを動物病院まで搬送しているところだった。突然、男の携帯が鳴った。「佐伯です。子ガモですか？ わかりました。見に行ってみますよ」

南砂一丁目の松島橋付近にある仙台掘川公園のため池にはカモの親子が生息している。そのうち8匹の子ガモが、今、カラスに襲われて4匹に減ってしまったという連絡が入った。

エコスペース博士、参上！

都の鳥獣保護員を務める佐伯志志さん（67歳）は、こどもたちから「エコスペース博士」と呼ばれているおじさんだ。エコスペースとは、野生の動植物が生息している場所のこと。

佐伯さんは高校まで熊本県阿蘇山麓で過ごした。その後、国立の大学に進み、水処理プラントなどを建設するメーカーに就職する。

平成20年7月5日発行
発行：江東区民部地域振興課
〒135-8383東京都江東区東陽4丁目11番28号
電話 03-3647-9111(代) <http://www.koto-npo.net>
編集制作：NPO法人サイクルリング



江東区の自慢シリーズ① ワシは誰？

【ヒント】
わが国文学史上で偉大な業績を残したと言われている。代表作は今でも世界で愛される「〇〇の物語」じゃよ。（答えは漫画にも登場）



「江東どんどこどん」の心意気

- 力を合わせて前に進むのが、どんどこどん。
- 人とまちをつなげるのが、どんどこどん。
- 区民なら誰でも参加できる、どんどこどん。



校外でもこどもたちから声をかけられるという佐伯さん

第二亀戸小の ヤゴ救出大作戦！

今、佐伯さんには大切にしている宝物がある。第一亀戸小のこどもたちから贈られた感想文だ。

「ヤゴ救出大作戦では、プールの底がヌルヌルしていてすべりそうになりました。ヤゴを助けた時の水は、緑色と茶色をしていました。ヤゴたちは、きたない水で生活していても平気なんでしょうか。少し心配です」（4年2組鈴木風花さん）

「佐伯さんへ。健康を大切になさってください。そのわけは健康でない病気がかかったりして今



時間の経つのも忘れるくらい、みんなは必死にヤゴを捜している

度4年生になる人にいろいろな生き物のことを教えてあげられなくなるからです」（4年1組伊藤光平くん）平成18年度4年生の感想文より
5月下旬、第一亀戸小の4年生による、ヤゴ救出大作戦があると、いつの間に見学させてもらった。雲ひとつない空の下、校舎の屋上にあるプールサイドは78人のこどもたちの笑顔であふれかえっていた。水底が見えるほどに水が抜かれ、ヤゴを捕獲しやすい水かさになっている。「ヤゴを踏まないようにすり足で移動すること！」と主任の斉藤先生がこどもたちにプール内での移動の仕方を教えている。「ギャツ、やっちゃったあ…」入って早々、苔で足を滑らせて全身びしょぬれになっている男の子もいる。「キヤー、キモーイ！」「ウォー、イッター銀ヤンマ、ゲット！」

その日、捕獲したヤゴは全部で銀ヤンマ380匹、赤トンボ10



親ガモは外敵から子ガモの身を守るため、周囲に目を光らせている

翌日、佐伯さんが子ガモを救出しに行くというので同行した。ため池にはカモたちが羽を休めることのできるスノコが浮かんでいた。佐伯さんはなんのためらいもなく、ハダシになってどんどん水の中に入っていく。プロックを立て、屋根をつくってあげた。今のままではカラスにまた襲われてしまうからだ。「ユウスケ…、アンナ…、ミキ…、アスカ！カラスに気をつける！」佐伯さんは子ガモに名前をつけていた。子ガモたちは親ガモの懐に抱かれながら、いつまでも身を寄せ合って眠っていた。

（文 迫真一）



NPO法人 漫画工房 同潤会

大切なまち・資源を守り、次代へつなぐ

「えこ・あくしょん江東」が

取り組む環境保全
各種の環境団体や個人会員で構成され、江東区を拠点にさまざまな環境活動を行っている「NPO法人えこ・あくしょん江東」。

行政や地域などと協力・連携した多彩なイベントを展開している。

事例1
「こどもたちがまちの魅力を再発見」

こどもたちに自分たちが暮らすまちの魅力を伝え、環境について関心をもってもらうとうと企画された『潮見のまち歩き』。参加したのは約30人の地元小学生とその保護者で、こどもたちの興味を引きつけるために「まちを冒険する」というスタイルで行われた。

潮見のまちのいろいろな場所で暗号や指令書を手に入れ、宝物を見つけて出すというストーリー。企画からシナリオ、小道具づくりなどイベントに全面的に協力したのは明治学院大学経済学部の服部准教授と服部ゼミの学生たち。当日は自らが天使や海賊、サンタクロースなどに扮し、電子紙芝居や歌、クイズなどの楽しいパフォー

NPO法人 えこ・あくしょん江東
E-mail: aga2000@topaz.ocn.ne.jp



まち歩きの冒険を終えて、手づくりの潮見地図に手形を残すこどもたち

介した。冒険のエピソードには地元住民や商店街の人々も登場。最初はとまどい気味だったこどもたちも巧みなストーリー展開と楽しいハプニングに引き込まれ、いつしか一人ひとりが物語の主人公に

このイベントが直接、地球温暖化や環境汚染などの防止につながるわけではない。しかし「自分たちが住んでいるまちの魅力(お宝)に気づき、愛情をもつことが第一歩。それが持続可能なまちづくりにつながるのでは」と話すのは、企画した石毛教子さん。冒険のプログラムではこどもたちに「地球の中の潮見の存在」を語りかけた。

「人や自然、虫や鳥：まちには大切な宝物があふれています」。

事例2
「再生わた」を使って、座布団づくり

かつては財産として大切に扱われていた「ふとん」も、今は都内で年間60万枚以上が捨てられる粗大ゴミのワースト1。そんな中、全国でも珍しい「リサイクルわた」を使った「小座布団づくり講座」が人気を呼んでいる。

指導にあたっていているのは、えこ・あくしょん江東の会員団体「ふとんリサイクル推進協議会」で、ゴミの減量と資源の有効活用を目的にふとんリサイクルの一環として始められた。会長を務める澤田清子さんは元東京蒲田技術学院の講師。「日本の伝統的な素材である『和わた』のふとんは、打ち直せば一生使うことができます。保温性、吸水性、耐久性に優れたわたの良



小座布団づくりに取り組む参加者。畳の上では上級者が長椅子用座布団を制作

さを座布団づくりで実感して欲しい」とわたの魅力を訴える。

参加費用は材料費の500円のみ。手軽さとつくる楽しさ、使う喜びが人気となって回を重ねるごとに参加申込者は増え、澤田さんのかつての教え子たちが指導のサポートをしている。現在、環境学習情報館「えこつくろ江東」で2カ月に1回のペースで開催。同協議会ではほかにもわた摘みからふとんづくりまでを体験できる講座などを開いている。

「わたの再生は日本の伝統文化。こういった技術を教えられる人もだんだん少なくなってきました。

事例3
「水彩都市」で緑り広げられる水辺のまつり

区内を流れる河川や運河など水辺の環境活動に取り組んでいるのは「NPO法人江東区の水辺に親しむ会」。さまざまなイベントを通して河川の役割や水辺環境の魅力を伝えている。

小名木川クローバー橋周辺で2日間にわたって開催される『水彩フェスティバル』では、和船の乗船体験や開門見学のほか、ライブ演奏やこどもたちによる伝統芸能なども披露。江東区や国交省関東地方整備局、江東治水事務所、江東区男女共同参画推進センター

（募集します）紙面の記事や四コマ漫画などに関する感想・意見・提案などを編集部（下記メールアドレス）までお寄せください。お待ちしております。

「わたの再生は日本の伝統文化。こういった技術を教えられる人もだんだん少なくなってきました。」

地域一帯となつて、豊かな水辺環境をつくる

の協力をはじめ、地域振興会、東京海洋大学、明治学院大学、江東区スポーツ会館、こども会、和船友の会などが一体となつてイベントを盛り上げ、毎年約千人の来場者でにぎわう。「船に乗った人は皆、川の水がきれいなことに驚かれますね」と話すのは同会の理事長須永倣子さん。間近に見れば水質が改善されていることがわかる江東区の河川。地元で古くから商店を営む人たちの多くも船上から見る川や周辺景色の意外な美しさに気づいたという。

その感動がきっかけとなり深川観光協会・地元商店街の呼びか

環境活動で地域とつながる
企業編
NECソフト株式会社
「ハーブ」で、エコ&コミュニティ活動

エコ活動の一環としてスタートした『チャリティハーブガーデンプロジェクト』。江東区の地域交流の橋渡し役として注目される

ハーブの魅力と自らの手で育てる喜びは、社内にまたたく間に広がっていったという。今後は、このハーブガーデンが多目的に利用できるコミュニティスペースともなるよう、区民、さらにはNPOや市民団体、地元企業などの参加も期待されるところ。成長したハーブはクラフト講習会で加工、江東区ボランティアまつりをはじめ各種イベントで販売され、区民の間でも好評だ。販売で得た収益金はアジアのこどもたちの就学支援として寄付されている。

NECソフト株式会社 CSR推進部 TEL: 03-5534-2211



本社近くの新木場駅前広場に造園されたハーブガーデン。専門家やNPO団体らの協力を得て大切に育てられたハーブが、行き交う人に爽やかな香りを届けている

環境活動で地域とつながる
大学編
芝浦工業大学
江戸の知恵「打ち水」で、まちぐるみのエコを!

古くから水辺のまちとして、水に親しみ、水を利用して生活してきた江東区豊洲で、「一斉打ち水大作戦」を開催! ~8月下旬(予定)~

世界に誇る伝統の「打ち水」という方法で汗に“涼”を体感し、楽しみながら地球環境にも貢献しようという試み。昨年、豊洲にある芝浦工業大学内で行ったこのイベントを、今年は豊洲のまち全体に広げる形で、まちづくり協議会参加企業を中心に、近隣企業や住民などの協力も得て実施される。

*詳細は、ポスター、チラシなどでお知らせします。



打ち水効果で気温が2度下がるとも。何より、大人もこどももみんなやれば、とにかく楽しい!

NPO法人江東区の水辺に親しむ会
TEL: 03-5639-2818
http://www.geocities.jp/mizubeland/

川辺に模擬店やカフェが並び、多くの人でにぎわう水彩フェスティバル

「わたの再生は日本の伝統文化。こういった技術を教えられる人もだんだん少なくなってきました。」



川辺に模擬店やカフェが並び、多くの人でにぎわう水彩フェスティバル

●知っ得! エコ用語●
家族や友だちと環境のことを考えるキッカケに使ってみよう!

環境アドバイザー 環境にやさしい社会を実現するためのライフスタイルなどのアドバイスをする人

エコメーター 水・ガス・電気などの消費計量器具のこと。
例: エコワット(家電製品の「CO₂排出量」「使用電力量」「使用時間」「電気料金」がわかる器具)

リユース 使用済み製品を洗うなどして繰り返し使うこと

エコバック 資源のムダづかいをしないため、買い物などに行くとき持参するバッグ

次号のお知らせ

次号第2号のテーマは「こども」です。子育て・教育・安全など、悩みはつきないこどもの問題。親だけでなく地域で育てていく取り組みをご紹介します。発行予定は10月5日。お楽しみに!